

山羊乳5升を記録

倉敷市の山本氏

日量5升を記録して、附近の話題となっている山羊が倉敷市内に現われた。この山羊は倉敷市平田の山本幸一氏飼育の昭和29年4月30日生、日本ザーネン種、白色、無角、両肉髯の「たいら一号」である。

山本氏は約2年前から山羊飼育を行っているが、この「たいら一号」は昨年同市中庄の牧野徹応氏から譲り受け、初産（当方種付）で最高乳量日量2升8合を記録し、今春3月31日、第二産でオス1、メス2、計3頭を分娩し、産後19日目に4升3合3勺、同25日目に4升4合8勺、同33日目に4升9合8勺を記録した。

この山羊の飼料給与量を見ると、日量青草6-8貫、押麦3合、大豆粕60匁を与え、逐次濃厚飼料を増飼しているが、今後5升以上の泌乳は可能と期待されている。

次にこの山羊の血統をみると、父は長野産のバレー一号（国有種牡1級、3NS533、本733、総社市真壁、土屋碩夫氏繋養）、母は県内産のいけづき号（予OY452、2升5合級）であるが、この交配をたどってみると、種メスは県内産、種オスは長野産の優秀なものを累代使用して改良作出されたものである。

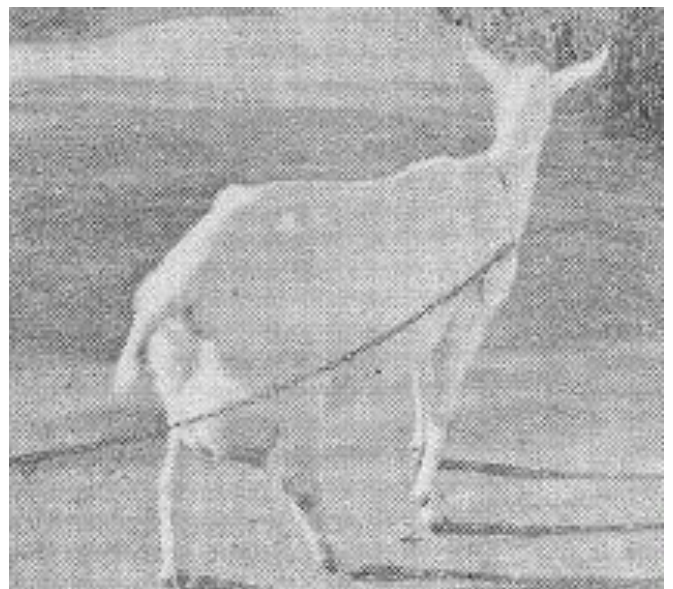
なおこの山羊は泌乳能力が優れているのみでなく体型的にも優れており採点75.49点を示しているが、今年4月30日に測定した数値は次のとおりである。

区 分	測定数値
体 重	71.2kg (19貫)
体 高	74.5cm
体 長	90.0
十 字 高	79.1
胸 巾	20.0
胸 深	37.0
腰 角 巾	21.0
座 骨 巾	17.0
尻 長	29.0
胸 囲	91.5
管 囲	8.0
胸 巾	22.0
体 長 率	120.8

この数値は何れも標準を越えるか或は近いものであるが、中でも特筆すべきは非常に胴延びのよいことで、体長率は実に120.8を示し、日本山羊の一般的通弊と言われる胴詰りの難点を見事打破している。

因に昨秋の全日本共進会出品山羊における優等賞一席に擬賞された“あけぼのまつもと四号”（長野産）の体長率をみると112.6で、この山羊はこれを遙かに突破しており、又各部の釣合もよく、胸の広さ、巾ともに充実し、楔形を呈し、乳房は左右の附着広く容積は特に優れ、量質ともによく乳脈は迂曲して長く、全般的によく出来た山羊で、今秋山口県下で行われる中国6県畜産共進会に代表として出品される予定であり、その成績が大いに期待されている。

今春の生産仔山羊オスは副乳のため淘汰したが、メス2頭は生後1ヵ月でそれぞれ4貫300匁、3貫400匁と順調な発育振を示している。



日量5升を記録した“たいら一号”